

母塾

2021・6・1



illustrated by Kurumi

VOI-57

『 ひとりにしないで ひとりにして 』 いのはなはるこ

1年生の末っ子が学校から帰ってきて一言。
「ところでさ、今日学校の間、ママ何してたの？」
なぜだかどぎまぎして「んー、何で？んー、いろいろ忙しくだよ。」と言うと
「ふーん」と特に興味もなさそう。「何で訊くのよ。」

学生の際は月曜日が嫌いでしたが、今は月曜日はわりと好きです。
家族がみな出かけていくと、ホッと一息ついて鼻歌も出てきます。
ひとは「ひとりにしないで」と「ひとりにして」の間でいつも揺れているものです。
専門家のデータで、子どもの虐待が起こる場合、そのママは必ず孤独だそうです。
孤独といっても子どもと一緒に、ひとりなわけではありません。
ひとりで育児をしているということです。
問題はママが「ひとりになれなかった」ことにあるのだと思います。
今までの歴史の中で、現在ほどママひとりで子どもを育てている時代はありません
もっと集団で子どもを育てていました。
小さな子はママとずっと一緒に居たいし、ママに守られるべきですが、
本来、ママひとりの育児は無理なのです。

ベビーマッサージのお手伝いの時にママたちが必ず言うのが、
「ひとりの時間が欲しい」ということです。
人間はひとりの孤独な時間も必要なのです。
自分ひとりで、自分と向き合い、自分のためだけに使う時間。

大変なママたちを助けてあげられるひとつは、「ひとりにさせてあげる」ことです。
パパでもお母さんでもお友だちでも助けてくれる方をつかまえて。
できれば2時間、無理なら30分でもママひとりの時間が欲しいです。

パパたち、おばあちゃん、おじいちゃん、ぜひぜひ。
たまには、ママをひとりにしてあげてください。
そのあとのママが「ひとりも。みんなも。いいな。」と思えるようになりますから。

harukoinohana1717@gmail.com